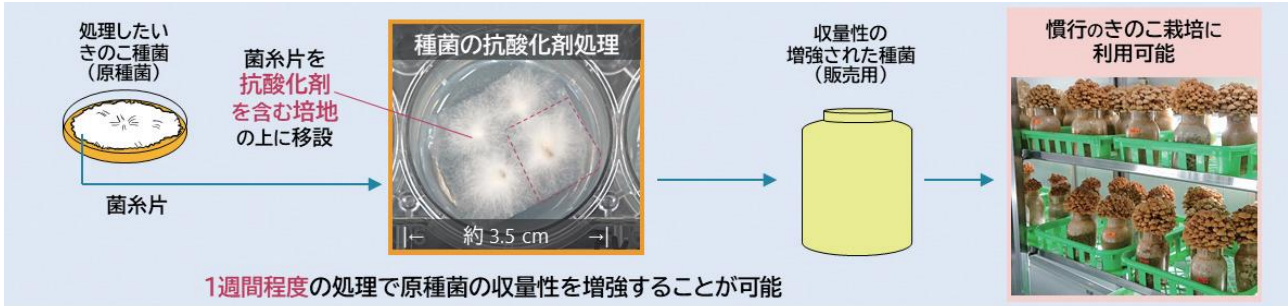


# 収量性を増強するときのこの種菌の前培養法

～煩雑な交配や栽培による選抜をせずに、きのこの種菌の収量性を改善できます～

## アピールポイント

簡便な培地作製と原種菌移設で作業が完了し、シイタケ・エノキタケ・タモギタケ等の人工栽培に利用可能です

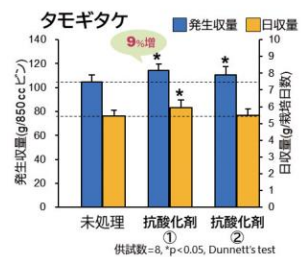
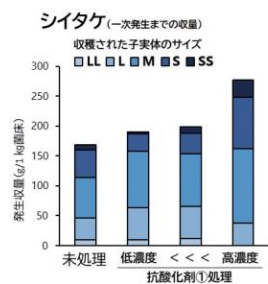
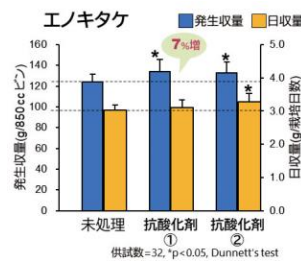


- ・きのこ栽培時の培地組成を変更することなく、きのこ子実体の収量を5～15%増強できます。
- ・処理に使用する抗酸化剤は食品や医薬品にも利用される人体に無害な成分です。

## 発明の特長

きのこ栽培に用いられる種菌の収量性を増強する従来法は、別のきのこ菌株や野生菌株との交配のほか、菌糸の高温処理、細胞壁溶解処理など労力や試薬のコストが高い処理が必要なうえ、処理後には栽培試験を行い、収量性が改善した菌糸を数か月かけて選抜する必要がありました。

本技術は安価な抗酸化剤を用いた簡便な培養処理を行うことで収量性の増強効果が得られます。原種菌の処理から栽培用種菌の作製まで約1週間で完了し、選抜作業をせずに種菌作製やきのこ栽培に使用しても収量性の増強が期待できます。



ハラタケ目のきのこで収量性の増強効果が確認されています

## 活用に向けて

- ・栽培事業者における栽培条件を変更する必要がないため、種菌メーカーにおけるロングセラー種菌の収量性増強などにおいて需要が期待できます。
- ・菌糸選抜用の栽培試験が不要なため、短期間・低コストで種菌の収量性改善を行いたい方にお勧めです。

## 基本情報

発明の名称	キノコの収量性増強剤及びその利用		
出願人	道総研		
特許出願番号	特願2023-016460		
出願日	令和5年2月6日	登録日	
実施許諾実績	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し	発明場	森林研究本部 林産試験場

キーワード:きのこ栽培、種菌培養、培養処理、ハラタケ目